

JCHO 福井勝山総合病院 地域協議会 第6回 議事録

開催日 平成29年9月22日 13:00~14:00

開催場所 病院2階講堂

出席者 大西委員、松井委員、坂井委員、平泉委員、松田委員、
杉平委員、安川委員、兜委員

院長挨拶の後、次の議題について協議した。

1. 委員の変更について

昨年度より変更になった委員の紹介を行う。

2. JCHO 版総合医育成プログラムの紹介について

JCHO 組織で総合診療医の育成プログラムについて概要の説明を行う。

【ご質問】

Q： 将来的に総合診療医の専門医を目指すためのプログラムなのでしょうか？

A： 他の科の専門を取得された医師も対象としており、指導の対象としては外科系医師が主になるかと思えます。

総合診療医として2年間勉強できる環境を提示する環境を整えているというのが現状です。

【ご意見】

JCHO(当院)でプログラムを受けた医師がこの地域ですぐに開業されるのではなく、開業圏を守る中で医師会の参加による医師同士の顔つなぎも必要だと思う。各開業医が協力して付き合い患者様を見守っていきバランスを取って地域医療を行なっていきたい。

→おっしゃられるとおりです。

ただし本プログラムは開業する医師のためにおこなうという目的ではありません。現在考えられるプログラムの活用としまして、開業医のご子息等が利用していただけるとよろしいかと考えております。

医師確保の厳しい現況において、地域で診療できる総合診療医の育成を目的としております。

3. 地域関連事業について

本年開催した事業（JCHO かつやま夏祭り、高齢者向け健康サロン）、これから開催する事業（JCHO かつやま健康フェスティバル、出張高齢者向け健康サロン）、新検診バス、DMAT 隊の編成について、院外医療従事者対象 I C L S コースの開催、救命救急士ビデオ硬性挿管用喉頭鏡を用いた気管挿入病院実習の受け入れ、に関して資料をもとに開催報告及び説明を行う。

【ご質問】

Q： 休日に病院イベントを行われていますが参加される看護師・介護福祉士等の出勤の扱いはどのようにされているのでしょうか？

A： 振替休日の取得が基本です。但し、短時間になる場合は超過勤務扱いで処理しております。

Q： 検診バスでの内視鏡検査にて、検診でおこなったカメラ検査で大丈夫と言いきるのではなく、患者様の安全・安心のためにも、今までどおりかかりつけの医師にご相談をとという案内をしていただきたい。

A： 病院にどうしても来られず内視鏡検査を受けたことがない方が内視鏡検査を受けられるようにすることが目的で検診バスに搭載いたしました。
検診結果で大丈夫ということはせず、スクリーニングとしての使用が主です。バス検診での内視鏡検査の件数も多くはできないので、病院で内視鏡を受診していただきたいと考えております。

Q： 出前健康サロン講座に関して、地区の社協を通じて案内されているのでしょうか？

A： 初めての試みであるため、奥越地区全ての社協には伝わっておりません。
1度おこなってお声をいただいたうえで、奥越各地域に展開できればと考えております。

【ご意見】

- ・開催されている病院イベントに従事される職員さんも楽しんで行える事業となるように努めていただけたらと思います。

→そのとおりです。尽力していきます

- ・肺がん検診の受診率が下がっています。肺がん検診の受診率によって補助金が変わるので、市役所等含めて受診を促進し、肺がん検診の受診率を高めていただきたい。

4. 意見交換

Q：産婦人科医の常勤医についてその後の動向はいかがですか？

A：福井大学医学部に依頼しており、常勤医 1 名の配属を今年度末か、来年度初めには出来るかという状況です。

大学教授は常勤医 1 人では分娩しない方針で、産科学会においても産婦人科医が少数の病院での分娩はできないといわれており、まだ分娩を行う環境を整えるのは難しい状況です。

Q：分娩は、助産師と医師一人でできないのか？昔は助産師さえいれば自宅でもできていたのに、何とか分娩することはできないのですか？人口減少にもつながっているのではなんとかしてほしい。

A：当院は福井大学の関連病院であり、大学病院産婦人科教授の考えに基づき、常勤医 1 名で分娩は行えない。また当院の助産師についても、今年度に数名が定年退職し、近年は助産師の募集をしておらず、助産師不足も懸念であります。

Q：常勤医師が定着しない理由として給与体制に問題はないか？

医師会からも紹介するには相応の待遇がないと難しい、サブスペシャリストを招くにも相応の待遇が必要だと思います。

A：公的病院なので、当院内での裁量のみで給料をあげることは難しいです。